

都道府県別賞一等

生命保険の大切さ

滋賀県 東近江市立能登川中学校 一学年

西堀 三玖

私は昨年、小学六年生の夏に大きな手術を受けた。専門の医師に診てもらったことが必要であったため、遠いけれど高速道路を利用して片道二時間ほどかかる病院に入院した。

入院してみてもわかったことは、治療費や入院費だけでなく、通院にかかる交通費、食事代、また差額ベッド代などたくさんのお金がかかるということだった。さらに、ずっと付き添ってくれた家族の寝具代、食事代も必要だ。

市の医療費助成や高額療養費制度等の公的保障を利用しても、入院や手術はどうしても治療費が高額になるため、個人の負担額が多くなる。そういった予期せぬ大きな出費があった場合に、小さい頃から生命保険に加入しておくことはとても大事だと実感した。

子どもはいつも元気いっぱいだから大丈夫、うちの子に限ってそんな心配はない、と多くの人は考えるかもしれない。実際に厚生労働省ホームページの『平成二十九年患者調査の概況』によると、十九歳以下の子どもの入院患者数・入院日数は、他の年代に比べて最も少ない。しかし私自身、病気が判明したのも突然だった。家族は本当に驚いたと思う。なので子どもがうまれてすぐ、健康なうちに加入するのが一番だと思う。

大人になると、子どもへの助成のような保障もなくなり、今以上に生命保険のありがたみがわかることであろう。また働けなくなった時の生活費の保障や、先進医療をカバーできるものであるかなど、年代や自分の生活スタイルによって保険を見直したり、選択できることで、私達はいつでも安心して生活しているのである。

今回、母から保険の話を知りたりして、私も勉強になってよかったと思う。将来社会人になって、自分の保険に加入する時がきたら、必要であるものを見極めて、リスクに備えたいと思う。

入院中、たくさんさんの医師・看護師・スタッフの方々に支えてもらって本当に感謝している。この先いろいろなことがあると思うが、ずっと元気で生活できるように、生命保険に加入することは、自分にとってのお守りであるように思う。